

札幌大谷大学同窓会

# OTANI しんしんかい 真心会

同窓会だより

第39号 平成27年10月10日発行

〒065-0016 札幌市東区北16条東9丁目1番1号

札幌大谷学園百周年記念館内

電話・FAX 011-743-6466

<http://www.sapporo-otani.ac.jp/dousoukai.php>



## 第1回キッズフェスティバル

2014年10月25日(土)  
札幌大谷大学3階大教室



## 第40回記念 谷の音会コンサート

札幌コンサートホール Kitara  
小ホール





札幌大谷大学

学長

岩城孝憲

五月頃、京都から大谷大学の教職員二人が来学され、真宗大谷派学校連合会の事業として、「親鸞エッセイコンテスト」が企画され、それに是非大勢の学生の参加をお願いしたいということでした。タイトルは、「親鸞さんに、今、伝えたいこと」で八〇〇字。優秀作には、京都での表彰式と図書カード贈呈とのこと。学生たちには、掲示板等で応募をお願いしていましたが、建学の精神の授業の最終時に、地域社会学科一年生と保育科二年生の学生たちを書いてもらいました。

書いてもらった五三枚を読んで、大変驚ろかされました。集団的自衛権と平和の問題を書いた学生が二人（四〇％）もいて、学生たちは、この国の政治を深く憂慮しているのです。次のように書いている女子学生がいて頭が下がります。唯一の被爆国として、その身をもって戦争の悲惨さを痛感しているはずなのに、何故自ら戦火に飛び込むようなことをしようとするのでしょうか。国を動かす立場の人が戦地へ赴くことはありません。死に逝くとしたら心優しい人々です。もしまた戦争が起るなら、私達は何の為に戦い、何の為に死に逝くのですか。……人は争う以外に共存の手段を選ぶことができないのでしょうか。親鸞さんに何か伝われば幸いです。親鸞聖人は、浄土のことを、しばしば浄邦と言われます。邦は、都の回りが木で囲まれ、人も物も往来自由の邦ですが、国（國）は、四方を城壁で囲めて、他人を信頼できない武装国家を表わす字です。共存ということが成り立つにはどうすればよいのか。共存が成り立たないのはどうしてなのか。学生たちの悲痛な願いに込める道を共に考えたく思います。



札幌大谷大学同窓会

会長 小原明美

音楽科14期

山々の木々も色付き、秋本番となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。同窓会も多くの課題をかかえる中、三年余りの時間をかけ、有意義なご意見時には厳しいご指摘をいただきながら、さまざまな改正、改革を行って参りました。

また定期的に開催しております各科行事も、各方面から高い評価をいただき、それぞれ地道な歩みがしっかりと実を結んでいることを実感しております。

昨年六月に行われました美術科「谷の会展」では、絵画、造形など個性豊かな力作が並び、静寂な空間の中、一つ一つの作品達から聞こえてくる製作者の「思い」

をじっくりと感じる事ができました。

同年十月、大学祭と同時開催の保育科「キッズフェスティバル」は、この地域の皆様が毎回楽しみにしている恒例行事となっております。会場には溢れんばかりの親子連れで大変な賑わいをみせました。

そして今年七月、札幌コンサートホール（キタラ小ホール）で開催されました音楽科「谷の音会コンサート」。緊張感漂うステージ上の熱演に、ご来場いただいたたくさんのお客様から心温まる盛大な拍手がおくられ、会場全体が大きな感動に包まれました。

こうして三科それぞれの活動が脈々と受け継がれることに年月の重み、継続することの大変さと大切さをあらためて感じております。

来年三月には社会学部から初めての卒業生をお迎えします。

状況が刻々と変化し、移り行く中、同窓会も進化していかなければなりません。皆様お一人お一人が少しでも本同窓会に目を向けていただきます事を切に願っております。

今後ともご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。





芸術学部  
音楽学科長

千葉 潤



芸術学部  
美術学科長

川口 浩



社会学部  
地域社会学科長

森 雅人



短期大学部  
保育科学科長

柘植 純一

平素より大変お世話になっております。今年の音楽学科は、専任教員が大幅に入れ替わる新しいスタートの年となりました。大学の開学以来、管弦打楽コースの基礎を築いていただいた倉橋健菊地秀夫両先生、それに音楽療法コースで三年間助教を勤めていただいた川合佐知子先生（大学第一期生）が揃ってご退任され、新たにホルンの井手詩朗先生とクラリネットの河野泰幸先生、音楽療法の高田由利子先生をお迎えいたしました。また、声楽の吉川順子先生、音楽療法の中山ヒサ子先生には、短期大学時代から長きにわたり教鞭をお取りいただきました。ここに改めて深く感謝申し上げます。

現在、音楽学科は高校音楽科の協力を得て、道内各地で「響流セミナー」を展開中です。これまでの実技レッスンに加え、コンクールや音楽史に関する講座などを盛り込み、様々な年齢層やレスナーの方を対象とした内容となっております。同窓生の方々には、是非、一度このセミナーをお楽しみいただければ幸いです。大学は依然として厳しい学生募集状況に置かれております。同窓生の方々に置かれましては、引き続き、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

美術学科は、芸術学部美術学科に改組して、今年度四年目の完成年度を迎えました。初年度は入学者が定員の七十名を上回り上々のスタートでしたが、二年目からは定員を割り、何とか九〇%以上の定員維持を継続してはいるものの苦戦が続いています。

近年、道内高等学校の美術教員数は激減が続いています。特に地方は顕著で、美術の非常勤講師もいなく教科もない。結果、指導者のいない美術部が沢山できました。学生募集活動はもっとも重要な仕事です。特に私学にとっては生き残りをかけた最優先事項です。しかし、目先の学生募集活動だけでは、このような高校教育の現状である限り将来は自明であります。そのため私達は、美術部応援プロジェクト「がんばれ美術の時間」を実施し、高校生の興味を喚起し、作ることに楽しさを知ってもらいたく活動を展開しています。道内どこにでも出向き、出張授業や部の実技指導を積極的にに行い、さらに、地区の高文連と連携して実技研修会を企画、講師を派遣して、生徒のスキルアップに貢献しています。美術学科は常日頃の教育実践・成果で評価をいただいています。教員の顔や活動が学生を集めるのではなく、このような日々の足元を見た地道な活動こそがそこに繋がるのです。美術学科教員全員が一致協力して、これからの厳しい時代に対応していく所存です。同窓会の皆様には、今後とも更なるご支援を美術学科に賜りますようお願い申し上げます。

社会学部地域社会学科は、今年度で完成年度を迎えました。この四年間、一九〇名の学生が一人も欠けることなく学び続けることができたのは、保護者の皆様によるご支援の賜物と感謝しております。学科といたしましては、ゼミナール担任制度によるきめ細やかな指導を行うことで、大学への定着を促してきたところです。一・二年の基礎演習では共通のテキストを使用

して、学びの基礎を作り、三・四年の専門演習では個別テーマに従って主体的な学びを深めてきました。このゼミナールの総仕上げとして、目下四年生は中間発表会の準備と卒業論文の制作に取り組んでおります。就活については、今年度からスケジュールが大きく変わったため、多少の戸惑いはあったものの四年間の学びを通して地域社会と関わり、プレゼンテーション能力を磨いてきた学生からは嬉しい報告が多数届いています。三年次には「インターンシップⅢ」という科目を開講しており、夏季休暇期間を利用して五日間の職場体験を実施しています。希望した学生全員が体験できるよう、様々な業種の二十七社（平成二十七年）にインターン生を受け入れていただきました。このインターンシップの体験が、働くことの意義や職業選択などに生かされています。来年度からは新しいカリキュラムで授業を展開します。大きな変更点としては、これまで以上に出口を意識して、観光産業、公務員、地域金融機関で働くことを想定した科目を増設しました。さらに、社会学の専門科目を充実させるとともに、中学校社会および高等学校倫理の教員免許に加えて、社会調査実務士や社会調査アシスタント、社会福祉主事などの資格が取得できるようにする予定です。同窓会からは教育講演会などで、いつも温かいご支援をいただいておりますが、教員一人一人を大切にすることを注いでまいりますので、今後ともご厚情を賜りますことを切にお願い申し上げます。

同窓会の皆様には本学保育科を温かく見守っていただきまして心から感謝申し上げます。本年度も定員を割ることなく一〇六名の新入生をお迎えすることができました。また今春の卒業生一七七名の進路は幼稚園四十七名、保育所四十三名、認定こども園十二名、保育所以外の福祉施設三名、一般就職六名、専攻科等進学三名、その他三名となっております。就職決定者の九十五%が保育の専門職に就きました。また今年度も昨年度に引き続き実務経験をもつ幼稚園教諭免許取得者を対象とした保育士資格取得の特例制度による講座を開講いたしました。本学卒業生を中心に七十九名が受講されました。懐かしい卒業生の皆様にたくさんお目にかかる事が出来、私たち保育科教員も非常に有意義な時間を過ごす事が出来ました。この講座は来年度も開講予定です。この幼稚園教諭としての実務経験をお持ちで、また保育士資格を取得されていない方の受講を心よりお待ち申し上げます。少子化等の影響により大学運営は大変厳しい状況が続いておりますが、歴史ある本学の伝統を汚すことなく教員一同全力を注いでまいりますので今後とも変わらぬご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

## 釧路支部



「今、思うこと」

支部長 泉 洋子 音楽科12期

ここ数年、各地での災害などの書き出しで文章が始まるのが通例だった気がして、地球規模で変化が進んでいる事を改めて感じる昨今です。とは言え毎日の生活はあまりにも普通に過ぎて行き、この落差をどう考えたものかなどと、思い巡らすのでもあります。

さて釧路支部は五月十日に支部総会を滞りなく終え、久しぶりの再会もあつたりで、楽しい時間を共にできました。当支部は、再来年に設立三十周年を迎えます。来年には準備に取りかからねばなりません。本当に早いものでまた本部や学校、そして会員の協力が、何よりも大切で、ぜひお心を寄せて頂きたいと思っております。最近何かと人の距離が、遠くなっている様を見るにつけ、付かず離れずの暖かな距離が同窓会の良さではなどと、ぼんやり考えたりもしております。

## 十勝支部



「息の長い活動へ」

支部長 高橋 亜香 音楽科20期

ここ数年の間に、気候が大きく変化していると感じるのは私だけでしょうか。季節はずれの猛暑や、ゲリラ豪雨と体がついていけない日々を送っております。

そんな中、今年度も六月十三日に支部総会を行い、十四名の参加者で事業内容や現在の大学の様子などについて意見交換を致しました。八月三十日には大学との共催で、社会学部長、平岡祥孝教授の教育講演会を行い、少しずつではありますが同窓生の社会学部への認知、理解を深めていけることを期待しております。

そして来年度に支部創立十周年を迎えるので、その準備も始めています。会員は音楽科が一番多いため、音楽を中心とした行事になるかと思いますが、各会員が卒業した各科のジャンルにとらわれずに活躍している事を知り、これからの支部の活動に少しでも活かしていけたら、と考えを深める日々です。

生き方暮らし方が多様になった今ですが、人との関わり方もいろいろだと感じます。

しかしながら同窓生となった今、年令を超えた良いつながりができると信じて微力ながらお手伝いさせていただければと思っております。

## オホーツク支部



「出会いと別れ」

支部長 横島 桂子 音楽科19期

今年度のオホーツク支部の活動は、四月二十五日(土曜日)の第一回幹事会により始まりました。幹事会での話し合いにより今年の支部総会は、本部総会の後、五月三十一日(日曜日)に行ないました。会場は毎年恒例のオホーツクビル園です。オホーツク圏は広いので、遠方であったり、子育て、介護、仕事などさまざまな事情で出席者は少なかつたのですが、会員の皆さんも、それぞれ自分の生活を精いっぱい大切になさっているのだと思います。私自身も、事情により、毎日看護学校の図書室で勤務する事になり、夕方からはピアノ教室と、毎日忙しく過ごしております。

来年十周年をむかえ、どうしようかと考えましたが、無理をせず様子を見ていきたいと思えます。

また、発足から七年間支部長を務め、さまざまな活動を積極的に行い、支部をささえてくださった小森副支部長が九月末に札幌に転居されます。出会いがあり、楽しい思い出もたくさん残して下さいました。ありがとうございました。



# 輝いて今……各科のなかまたち

「吸収する心を忘れずに」

柏木あかね 保育科48期



保育士になって六年目、異動も経験し、今年度からは保育教諭として認定こども園に勤めています。

先輩の保育を見て憧

れ、真似し、私もできるようにになりたい、先輩のようにになりたい、という素直な気持ちで溢れていた新採用の頃。経験を重ねていくにつれ、様々なことに疑問を持つことが増え、職員間の連携や保育観の違いを認め合うことなど、難しいと感じることが多くなりました。様々な考え方の職員がいる中で、子どもたちのためにはどうすることが一番良いのだろうか…と悩むこともあります。

自分の理想とする姿と今の姿とのギャップ、そして求められる姿との違いを感じることもありますが、日々を大切に、いつでも楽しい先生として、自分自身が楽しみながら保育をしていきたいと思うのと同時に、他職員の良い所、素敵な所を吸収する心を忘れず、元気で、職場を活性化していきたいような保育者でありたいと思っています。

「第15回 清水かつら記念日本歌曲歌唱コンクール」

理寛寺尚子 音楽科30期



学生時代はオペラやリートに夢中で、日本歌曲には見向きもせず、一曲も歌った事が無かった私が、日本歌曲に取り組みきっかけとなったのは、ぐんま新人演奏会のオーディションでした。課題として一曲は日本歌曲を含めるという規定があり、初めて日

本歌曲を勉強することになりました。そして、日本語を美しく発音すること、それを美しい音色で歌うことの難しさを知ると同時に、日本語の持つ美しい語感や、日本古来の節回しに魅了され、勉強を深める日々を過ごしてきました。

それから十年の月日を費やし取り組んできた自分の歌が、どの様に評価されるのかを知るべく、コンクールに挑戦してみようと思いつきました。思い返せば学生時代から、自分の声や演奏に全く自信が持てず、人と競う事が苦手で、そういった機会からは目を背けてきた私。四十歳を目前に人生初のチャレンジでした。

初めてのコンクールに緊張する自分自身に『とにかく歌は心だ！心を入れて歌おう!!』と、強く言い聞かせ、舞台上に立ち、歌いだしは震えつつも、最後は集中して歌い終えましたが、自分の前後の方々の方々の演奏が大変素晴らしく、反省ばかりが心を占め、不安な気持ちで結果発表を待ちました。

しかし、自分の予想を裏切り、審査結果は第一位及び文部科学大臣賞受賞という大変嬉しい驚きに満ちたものでした!! この喜びと同時に、この結果に恥じない演奏をこれから先は求められていくのだと、身が引き締まる思いでした。

歳を重ねるごとに、詩の解釈も、表現も深みを増していけると信じ、より一層真摯に歌と向き合っていこうと思います。

「続ける力」  
ちから

野呂理枝子 美術科12期



この十数年間、立体で人間の存在感や佇（たなずま）いを表現したいと思い「現代の創作人形」として制作し続けて来ました。けれど、装飾性

は欲しくないとか、物語を語り過ぎたくないとか色々取り除いてゆくと、彫刻としての人体表現方法が最も必要だと痛感しました。基本を勉強し直すしかないと思われ、新しい表現方法や素材が沢山あるのにな。と呟きながら、毎日粘土で汚れた手を洗っています。しかし太古の昔から人間は土で「ひとがた」を作ったかたという大きな括りの中のご自分に自分も居ると考えれば、心も落ち着きます。人間の美を表現したい欲求を核として、核の磁力のまわりを楕円か螺旋か無軌道か、幾度も学び直しという門（かど）をくぐり直しながら廻り続けています。先人の膨大な作品群に圧倒されながら、自分だけの表現なんて在るのかなと迷っても、鑑賞する人ではなく、創る人でありたいと念じながら粘土に触れていけば、何か開けるはずと考えながら、毎日の制作を続けています。



## 図書館について

札幌大谷大学図書館は、記念棟1階の本館と、南棟1階の第2図書館の2箇所に分かれています。本館には社会学部・保育・美術・仏教・その他一般図書を、第2図書館には音楽関係の資料を収蔵しています。どちらも自由に利用できますので、用途に応じてご利用下さい



### 開館時間

月～金曜日	9:00～19:00
土曜日	9:00～16:30
長期休暇中	9:00～16:00

### 閉館日

※日曜日、国民の休日、年末年始及び大学の定めた休日。その他、学校行事等の都合で臨時閉館または開館することがあります。

## 平成26年度収支決算書

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

札幌大谷大学同窓会真心会

収 入 9,061,887円  
支 出 3,685,942円  
差引残高 5,375,945円(次年度繰越)

### 収入の部

(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	摘 要
入 会 金	2,750,000	2,780,000	△30,000	短大1年入学手続者 107名 @10,000 大学1年入学手続者 171名 @10,000
会 費	3,624,000	3,278,500	345,500	短大在学生 114名 @3,000 大学在学生 183.5名 @5,000 卒業生 515名 2,019,000
雑 収 入	50,000	196,485	△146,485	御祝儀50,000円、懇親会20,000円 預貯金利息、谷の会展会費
前年度繰越金	2,806,902	2,806,902	0	
合 計	9,230,902	9,061,887	169,015	

### 支出の部

(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	摘 要
同窓会便り発行費	400,000	291,276	108,724	第38号印刷費 7,750部
同窓会便り発送費	750,000	649,644	100,356	発送費 @87.4 7,433通
消 耗 品 費	100,000	25,308	74,692	事務用品等
活 動 費	700,000	441,732	258,268	役員活動費、交通費
通 信・連 絡 費	200,000	212,720	△12,720	総会案内ハガキ、資料発送費、電話代
印 刷 費	300,000	236,896	63,104	総会案内印刷、封筒、コピー代
会 議 費	600,000	208,778	391,222	役員会等費用
慶 弔 費	300,000	143,000	157,000	入学・卒業式・三科・支部祝花・香典・供花
補 助 費	400,000	150,000	250,000	支部@5万×3
デ ー タ 管 理 費	60,000	54,000	6,000	名簿データベースメンテナンス
卒 業 記 念 品	400,000	343,700	56,300	26年度卒業生名簿、卒業記念品
支 部 関 連 費	400,000	485,754	△85,754	支部会議・交通・宿泊費等
行 事 費	4,400,000	306,667	4,093,333	谷の会展・キッズフェスティバル
備 品 費	200,000	28,772	171,228	同窓会室ロッカー
雑 費	20,902	107,695	△86,793	理事長・学長・事務方挨拶・振込手数料等
合 計	9,230,902	3,685,942	5,544,960	-

《平成27年度事業ならびに活動予定》

平成27年

4・2 大学・短期大学部入学式出席

5・23 同窓会本部・支部連携会議及び総会

7・4 第40回記念谷の音会コンサート

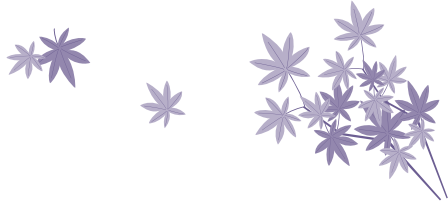
〈札幌コンサートホール〉

8・30 教育講演会「帯広市」

10・上旬 同窓会だより第39号発行

平成28年

3・12 大学学位記・修了授与式出席



## 同窓生数

芸術学部	
音楽学科	245名
美術学科	90名
音楽学部	370名
保育科	4,896名
音楽科	4,398名
美術科	3,467名

計 13,466名  
(2015年3月卒業まで) 編入者含む

## 行事報告

## 保育科

平成26年10月25日(土)、真心会主催の第1回キッズフェスティバルを大学大教室にて開催いたしました。百数十組の親子の来場により、「作ってあそぶコーナー」「よみきかせコーナー」等々で楽しく遊ぶ様子が見られました。

また、保育科学生による「にこにこコンサート」も盛大にもり上がり、大盛況のうちに終了いたしました。

## 芸術学部美術学科

同窓会が統一されて真心会となり、第1回目の谷の会展を平成26年6月10日から15日まで札幌大丸藤井セントラルにて開催いたしました。卒業生、在校生の皆様からたくさんのご出点を頂き、盛会のうちにおえる事ができました。ご協力いただいた皆様ありがとうございました。



## 芸術学部音楽学科

2015年7月4日(土)札幌コンサートホールキタラ小ホールにおいて「第40回記念谷の音会コンサート」が開催されました。

札幌大谷大学芸術学部音楽学科4年生から卒業後何十年?も経過した年令幅のある総勢13人が出演いたしました。

多彩なプログラムの中に此の度初めてのマリンバデュオ公演が加わり、たくさんのお客様、先生方に見守られて緊張感の中にも幸福を感じるひと時になりました。

## 「保育士資格取得特例講座」について

保育科では平成26年度から、幼稚園教諭免許をお持ちで、一定以上の実務経験のある方を対象とした保育士資格取得特例講座(通信制)を開講しています。

今年度は、79名の方が受講され、5月末～8月上旬にかけて行われたスクーリングと添削課題に取り組みました。

受講料は1科目1万円(この他に教科書代など実費負担有り)、本学卒業生は入学金が免除されます。

平成28年度以降の開講については現在検討中です。詳細が決定次第、本学HPに掲載いたします。

(お問い合わせ先: 保育研究室 011-742-1679)

## 《会費の納入方法》 平成 26 年度より改正

### 【在学生（準会員）】

#### \*平成 26 年 4 月 1 日入学生から

- ・入会金 10,000 円：入学時に納入
- ・終身会費 20,000 円：大学…4 年次後期に納入  
：短大…2 年次後期に納入

#### \*平成 24 年 4 月～平成 25 年 4 月までの入学生 (現 3、4 年生)

- ・入会金 10,000 円：入学時に納入
  - ・卒業時に以下①②のどちらかを選択
    - ①終身会費 20,000 円：卒業時（正会員となった時）に納入
    - ②卒業後⑥年目より年会費 1,000 円を毎年納入
- ※年会費を選択した場合、卒業から 5 年間の会費納入は免除

### 【卒業生（正会員）】

#### \*正会員になってから 6 年未満の会員 (平成 20 年度～平成 25 年度の卒業生)

卒業してから 5 年分の会費免除。6 年目から以下①②のどちらかを選択

- ①終身会費 20,000 円を納入
- ②年会費 1,000 円を毎年納入

#### \*正会員になってから 6 年以上の会員 (平成 19 年度以前の卒業生)

平成 26 年度より、以下①②のどちらかを選択

- ①終身会費 20,000 円を納入
- ②年会費 1,000 円を毎年納入

会費納入についてのお問い合わせは同窓会室 FAX か gmail とします。

FAX/011-743-6466 gmail/ootanisinsinkai@gmail.com



ハナウタ

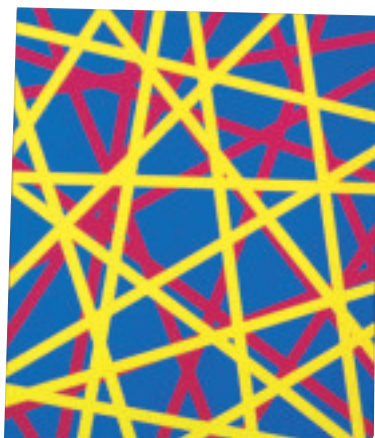


夜桜にて音に舞うもの



Rest in a Forest

山本 恵 (美 30) 平成 8 年度 専攻科美術専攻デザインコース修了 H27 年 4 月～9 月まで展示



「交 錯」

齋藤真由子 (美 44) 平成 22 年度 専攻科美術専攻デザインコース修了 H26 年 10 月～H27 年 3 月まで展示

同窓会ギャラリー  
——  
本学食堂に展示

平成 27 年度真心会本部

役員  
名誉会長 巖城孝憲 (学長)

会長 小原明美 (音 14 期)

副会長 澤田一枝 (音 15 期)

副会長 安田澄子 (美 8 期)

書記 長谷川礼子 (保 16 期)

書記 石川有希子 (音 30 期)

書記 経塚真代 (美 34 期)

会計 谷原弥生 (保 19 期)

会計 佐藤潤子 (美 12 期)

庶務 藤川絵里子 (保 28 期)

会計監査 長井いつみ (音 12 期)

会計監査 永原まゆみ (美 20 期)

### 編集後記

さまざまなる自然災害で  
避難されている皆様、心よ  
りお見舞い申し上げます。  
今年も同窓会だよりを  
無事お届けすることがで  
きました。  
皆様のご協力に心より  
感謝いたします。